

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2018-03-15

APM news 189

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

第43回課外授業 長岡市立上組小学校・APM連携展覧会

「12歳のわたし～卒業をむかえる今、自分を見つめて～」

2月24日(土)、25日(日)am10:00～pm3:00 / 長岡市立上組小学校6年生 / 入館者数:128名



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



長岡市立上組小学校(上組小)と秋山孝ポスター美術館長岡(APM)との連携した活動は、APMが開館した2009年から継続しており、今回の展覧会で25回目となる。活動内容は、展示、講演、鑑賞、作品貸出等、多岐に渡る。また、APM館長・秋山孝(上組小卒業)個人との関係はAPM開館前の2000年にさかのぼる。「上組こども美術館・秋山孝と子どもたち展」(2000年)、「美術とデザイン(講演)」(2000年)、「上組小学校課外授業・学校は美術館(講演)」(2001年)を行ってきた。

今回の展示は「12歳のわたし～卒業をむかえる今、自分を見つめて～」と題し、上組小6年生73名の版画と毛筆を展示した。版画は自画像を、毛筆は漢字一字を作品に仕上げたものである。自画像の版画は、毎日何気なく眺めている自分の顔を改めて見つめなおし、その表情を彫りあげる。毛筆は、自分が伝えたい気持ちを漢字一字に込める。6年生がまもなく卒業を迎え、新たな一歩を踏み出そうとしている今だからこそ、その表情やその一字には、様々な思いが込められていたことだろう。

当日は6年生やその家族の他、地域の人々もAPMを訪れた。家族全員で来館する生徒もいれば、離れて暮らす祖父母と一緒に足を運んだ生徒、中には24日、25日の両日とも訪れた生徒もいた。どの生徒も少し恥ずかしそうに、そして誇らしそうに説明をしていた。自分の作品が美術館に展示されるというのは貴重な経験と言えよう。上組小6年生の展示をAPMで行うことになった時、秋山館長が大切にしたのは、小学生の作品だからこそ、APMで通常展示する作品と同様にきちんと額に入れ、壁面に展示することであった。額に入れられ美術館の壁面に展示されたそれは、自分の作品でありながら自分の手を離れたものでもある。自分の作品を客観的に見つめ、友人の作品と比較し、作品に込められたメッセージを考える。この一連の過程が重要で、卒業を控える6年生にAPMが提供できるひとつの贈り物である。

2017年度は、5月の「APM見学 / 「秋山孝の神秘3『パラダイム』展」と今回の連携展覧会、2回の活動を行った。連携展覧会では、今まで1日だけの開催であったところを2日間に拡大した。土日だけの開催ではあるが、入館人数も増え、習い事等で多忙な小学生も、その保護者も、来館しやすくなったようだ。小さな変化ではあるが、そうしたことの積み重ねがよりよい活動を作っていくと信じている。上組小は美術教育に力を入れている学校ということもあり、APMとの連携した活動も9年目となった。今後も地域の美術教育に貢献すべく、地域の教育機関との連携を大切に考えていきたい。(森山奈帆・APM職員)